

91 愛知県病院教師足立盛至の天秤 もりよし てんびん

今年、神奈川県在住の足立葉一氏から、曾祖父にあたる足立盛至が使っていたものとして足立家に伝わる天秤を、本学に寄贈したいとお話をいただきました。また盛至の写真もお持ちとのことでした。

足立盛至（梅溪、慎吾）は、愛知県病院・医学講習所（本学医学部の前身）の教師兼通訳であり、お雇い外国人ヨングハンスとともに、病院の中心的役割を担ったと考えられている人物です。しかし、その具体的な人物像についてはほとんど知られておらず、肖像写真も見つかっていませんでした。その意味でも、この天秤と写真は大変貴重な資料といえます。

本学では、天秤を博物館にご寄贈いただくことにしました。さらにこれをきっかけとした高橋昭名誉教授の精力的な調査により、盛至のことがいろいろと分かってきました。

足立盛至（1836-1896）は、現在の鹿児島県に生まれました。足立家は、蘭方医であった先々代が初めて薩摩藩に

召しかかえられ、その孫が盛至でした。盛至は、佐倉順天堂（現在の順天堂大学）で佐藤尚中に洋学を学びました。戊辰戦争では、薩摩藩の命令により従軍し、戦傷者の治療にあたりました。その後、鹿児島医学校の教師としてその運営を指導しました。東京慈恵会医科大学の創始者高木兼寛はその門下生です。当時の足立は、英学医としては日本の第一人者とも言われていました。また、のちに明治政府で立身した薩摩藩士寺島宗則や、幕府の洋式陸軍を育成した大鳥圭介などと親交がありました。

1873(明治6)年5月から76年4月まで勤務した足立は、契約満了により名古屋を去り、郷里にもどりました。そこで私立天臣病院を設立して診療や子弟の教育にあたり、西南戦争では西郷軍の軍医として活躍しました。

この足立盛至の天秤は、現在開催中の博物館第19回企画展で展示されています（12月26日まで）。



1	2	3
4		

- 1 足立家に伝えられてきた足立盛至の上皿天秤（名古屋大学博物館所蔵）
- 2 足立盛至の数え37歳当時の写真（足立家所蔵）。名古屋に赴任する前年の1872(明治5)年に撮影されたもの。
- 3 足立盛至の墓碑。東京都豊島区の雑司ヶ谷霊園にあり、1896年9月25日に享年61歳で没したと記されている。
- 4 足立盛至とともに愛知県病院や医学講習所を指導したヨングハンスによる植皮手術を描いた錦絵（『大阪錦絵新聞』1875年、順天堂大学所蔵）。翌年には錦絵になるほど注目された手術であった。ただ医学的には成功しなかったと考えられている。

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話 ☎789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。